公益社団法人日本雪氷学会関東・中部・西日本支部
2018 年度第 2 回支部理事会

日時：　2018 年 9 月 13 日（木）　16:00～18:00
場所：ネット会議

議題（案）
１．審議事項
　１）サイエンスカフェ
　２）出前授業
　３）支部賞選考委員会からの提言について
　４）その他（本部理事推薦プロセスに関して）
２．報告事項
　１）サイエンスアゴラの報告
　２）その他
３．その他

添付資料
資料１：サイエンスカフェの開催に関して
資料 2：講師派遣事業の提案に関して
資料 3：支部賞選考委員からの提言
資料 4：支部長選出に関する理事会申し合わせ（案）
資料５：サイエンスアゴラの報告

資料 1

公益社団法人日本雪氷学会関東・中部・西日本支部主催事業
共催：国立極地研究所

事業名称

「植物シモバシラ　写真展及びサイエンスカフェ」

場所

国立極地研究所　南極・北極科学館

イベントタイトル

「植物シモバシラが魅せる氷の世界」

講師：

武田　一夫氏

目的

一般を対象に、シソ科植物・シモバシラから成長した氷の写真展を開催し、サイエンスカフェでその不思議を科学する。

事業内容：

・写真展：

国立極地研究所南極・北極科学館における植物シモバシラの写真展 （2 週間から 1 ヶ月）

・サイエンスカフェ

2018 年 11 月 30 日（金） 18：00～19：30
サザンクロス（南極・北極科学館となりの談話室）においてサイエンスカフェを行い、植物シモバシラの不思議を科学する。
（写真展期間中 1 回：平日金曜日夕方）

期間：

2018 年 11 月 30 日（金） 18：00～19：30
準備：武田さん所有の写真を 20 枚程度？）

備考：

・雪氷学会関東以西支部では講師の旅費を負担する。
・国立極地研究所南極・北極科学館との共催事業とする。

資料 2

雪氷学会　関東以西支部における講師派遣事業の提案

講師派遣事業：（小学・中学・高校生及び一般を対象とした講師派遣事業）

１．提案趣旨

雪氷学会は、各研究機関と同じように、研究面、教育面そして社会貢献の使命を持っています。特に公益社団法人となって以降、より一層"公益性"つまり社会貢献が求められています。雪氷研究大会時の「雪氷楽会」や公開講演会のような、教育または公開の場で、小中高校生や市民の皆さんに、雪氷現象、雪氷知識や雪氷計測技術等の雪や氷に関連する様々な話題について、授業・実験・講演を行って紹介することも重要な社会貢献の一つと考えられます。

しかしながら、会員の中には、そのような意思や能力がありながらも、雪氷研究大会以外の時にその活動を行う方法が分からない会員が少なからずいると考えられます。

本事業は、そのような会員に支部事務局に登録を行っていただき、Web での公開を行い、授業やサイエンスカフェ等のイベント企画側からの要望に応じて調整した後、会員を講師として派遣するものです。

２. 内容

講師を行ってもよいという会員は、資料にあるような派遣講師情報を事務局に送ります。事務局は用意した講師派遣事業のサイトで講師情報を公開します。それを見たイベント企画者は講師派遣要望書を事務局に送ります。事務局は講師に連絡し、イベント企画側とのマッチングを行います。マッチング後のやり取りは講師とイベント企画者に委ねるものとします。

３. 費用に関して

授業並びに講師派遣にかかる費用の負担：

1） 原則として、旅費および実験及び授業で利用する消耗品等は招へい側の負担とします。また謝金は無しとします。
2） 年度初めから積算 10 万円までの派遣の申し込みについての日帰り旅費は支部が負担します。
3） ただし、招へい側からの謝金の申し出については講師に委ねます。

資料 2

公益社団法人日本雪氷学会関東･中部･西日本支部

派遣講師情報

<table>
<tr><td colspan="3">・氏名（ふりがな）</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="3">・所属先・職名</td></tr>
<tr><td colspan="3">・ウェブサイト</td></tr>
<tr><td colspan="4">・プロフィール</td></tr>
<tr><td colspan="4">・派遣可能地域</td></tr>
<tr><td colspan="4">・提供できる講義内容</td></tr>
<tr><td></td><td>講演タイトル、内容</td><td>対象</td><td>実験の有無</td></tr>
<tr><td rowspan="3"></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">・講義形態、設備なとに関する希望</td></tr>
</table>

資料：他の学会の例

1．日本生物物理学会
http://www.biophys.jp/org/org08.html

中高校への講師派遣サポート事業について

日本生物物理学会では、2016 年 10 月より新たに、小学・中学・高校生を対象とした講師派遣サポート事業を開始いたします。本事業の趣旨は、初等中等教育の場で最先端の科学の魅力を伝え、次世代を担う子どもたちに科学に対する興味を育んでもらうことにより、学会として社会に貢献することにあります。学会は、派遣授業が可能な講師の情報をホームページ上で紹介し、学校からの希望を受けて各講師に依頼することにより、学校と講師の橋渡しを行います。

講師派遣を希望する学校の皆さまへ

生物物理学は、生命現象の根本を理解しようとする学問です。私たちは、分子の集合体である生き物において、増殖、エネルギー生産、運動など複雑な生命現象がどのように引き起こされるかという謎を、様々な手法で解き明かそうとしています。本事業を通じて、小中高校生の皆さんに生命の不思議に対する感動を伝え、最先端の研究を紹介したいと思っております。

派遣講師一覧

申込みから派遣まで

(1)　各学校の担当者は，公開した講師一覧から派遣を希望する講師をお選びください。その際、講義（実験）内容、派遣可能地域、対象学年の別など（各講師の氏名をクリックすることにより、詳しい情報をダウンロードできます）をご考慮ください。

(2)　日本生物物理学会事務局（e-mail:bpsjp@biophys.jp）に、希望講師名、希望講義名、学校名，生徒の学年、担当者のお名前，連絡先電話番号，電子メールアドレスを記して、お申し込みください。

(3)　学会事務局は、派遣希望の旨を対象の講師に伝え、講師から学校の担当者に直接連絡するよう依頼します。

(4)　日時や具体的内容など派遣授業に関する詳細は、学校の担当者と派遣講師の間でご相談ください。

•注意事項

※　一人の講師については、原則として年間1回までの派遣を予定しております。もし、希望される講師の派遣が不可能な場合は、学会事務局より連絡いたします。

※　派遣に際しての交通費は、学校に負担をお願いしております。謝金は必要ありません。

派遣実績（準備中）

講師登録をお考えの会員の方へ

派遣講師大募集！

小中高校への講師派遣サポート事業の趣旨にご賛同いただき、出張セミナーをしていただける会員の方を募集します。シニアから若者まで、幅広い層の会員の方の応募をお待ちしています。

講師登録をしていただける方は、下記「講師登録用紙」のリンクから用紙をダウンロードし、必要事項をご記入の上、日本生物物理学会事務局（e-mail:bpsjp@biophys.jp）までお送りください。講師としての登録が決まった方につきましては、登録情報を、非公開を希望される情報を除き、学会ホームページ上で公開させていただきます。

学会における担当者は、小中高校からの講師派遣依頼を受けて講師に連絡します。日程な

ど詳細については，講師と学校との間で直接調整していただきます。
※　交通費は派遣先学校に負担をお願いしています。謝金は原則、無しといたします。
※　講師への負担軽減のため、派遣授業は特に希望がない限り講師一人あたり年に一回までとします。
他学会の動向（参考までに）

2）日本陸水学会　環境教育講師派遣事業

日本陸水学会では、小中高等学校、環境 NPO などの市民団体、企業等による環境教育活動（講演会・授業・野外実習など）に対し、専門家の派遣や教育プログラムへの助言を行っています。
http://www.jslim.jp/?page_id=1086
費用；不明

3）日本分子生物学会　高校などへの講師派遣事業

平成 24 年度の教科書の改訂に伴い、現場を担当する高校教師の方々から、最新の内容を教えることについて不安の声も聞き及んでいます。学会はそのような教師の方々と分子生物学に関する最新の情報を共有することも重要であると考えています。
http://www.mbsj.jp/activity/dispatch_forschool.html
費用：会員の派遣に関しましては SSH などの国からの予算を計上している事業以外へは"無料"（会員の勤務地などを考慮して工夫しますが、学会会員の自己負担）を考えています。

4）日本材料学会　講師派遣事業

社団法人日本材料学会では，私たちの生活になくてはならない“材料”について皆さんにもっとよく知っていただこうと，材料に関連する様々な話題について小中高校生から社会人の皆さんまでを対象にした授業を提供しています．
http://www.jsms.jp/kosihaken/top_annai.htm
費用：学会　ただし有料会場での会場費負担は招へい元

5）日本地球化学会　講師派遣事業

未来の日本の科学を担う小中高校生に地球化学の視点から理科の面白さを伝える
http://www.geochem.jp/qanda/index.html
費用：謝金：不要、原則交通費のみ負担

6）日本海洋学会　講師派遣事業

海洋学会員による授業を通じて、最先端の海洋学のおもしろさを伝えながら、理科全般および海洋に関する国民的リテラシーの醸成に少しでも貢献できればと考えております。
東京大学海洋アライアンスに所属する会員の講師派遣は、海洋学会と海洋アライアンス「出前授業」プログラム（http://www.oa.u-tokyo.ac.jp/demae/index.html）との共催として実施されます。
http://kaiyo-gakkai.jp/jos/about/school_visit
費用：原則として謝金：不要、交通費（宿泊が必要な場合は宿泊費）のみ負担

資料 3

（別紙）

2018 年 3 月 29 日

関東・中部・西日本支部賞に関する支部長への提言

関東・中部・西日本支部賞選考委員会

2018 年 3 月 13 日（火）に開催された、2017 年度の支部賞選考委員会において、以下のような意見がありました。どうぞよろしくご検討頂きますようお願いいたします。

１．公益社団法人である学会の支部として、受賞者を支部会員に限るのがよいかどうか、支部理事会で検討して頂きたい。

２．支部賞への応募者数を増加させる方策について検討して頂きたい。具体的な方策の案として、支部賞選考委員会では以下が挙げられました。

1) 雪氷に関わる研究者・専門家を育成するため、学生奨励賞（仮称）を設け、学生・院生による優秀な研究を表彰する。
2) 雪氷に関わる新技術や新機器の開発を奨励するため、技術賞（仮称）を設け、民間企業等による優秀な研究開発を表彰する。
3) 学生奨励賞（仮称）、技術賞（仮称）を、全国大会の予稿集に掲載された研究発表を対象として選考する等の方法も考えられ、次年度の応募状況も参考にしつつ、支部賞選考委員会で具体的な方策についての審議を継続する。

資料4

支部長候補選出に関する支部理事会申し合わせに関する件（案）

2018 年 9 月 13 日

1　目的

定款では、支部長は本部理事会で本部理事の中から選出される。

本部理事選挙の際に、本部理事候補として、支部長候補者を支部として推薦することが可能である。しかしこれまでは、その方法が定められていなかった。これまでは現支部長が個人的に支部長候補者を探し出し、本部理事候補者として推薦していた。その際、支部理事会に了承を得ない時もあった。

支部内規第 6 条

> “支部長は、支部からの推薦に基づき、定款施行細則第 28 条により、定款第 20 条に定める本部理事の中から本部理事会において選出する。”

とある。本来ならば、この件に関して支部理事会として、何かしらの申し合わせ事項等の共通理解が必要であると考える。

支部理事会は、支部の円滑な運営のため、本部理事選挙の際に、本部理事候補として、支部長候補者を支部として推薦することを申し合わせることを提案する。

以下申し合わせが了承されるならば、以下の手順案を議論する。

2　手順案

① 支部長は本部理事選挙（通常 1 月末までに候補者を募る）の公示前に、支部理事会に対して、期間を定めて、次期支部長候補者の推薦（自薦・他薦）を要請する。

② 支部理事は次期支部長候補者を推薦（自薦・他薦）する。

③ 支部長は被推薦者のリストを支部理事会に示し、支部として推薦する本部理事候補者を支部理事会で決定し、本部理事選挙委員会に推薦する。

＊万が一、推薦した候補が本部理事会選挙で落選した場合は、本部理事会が選出した支部長を受け入れる。

3. 支部内規変更案

現支部内規

（役員の選出）

第6条　支部長は、支部からの推薦に基づき、定款施行細則第28 条により、定款第20条に定める本部理事の中から本部理事会において選出する。

２ 支部理事及び支部監事の選出は次の各号による。

(1) 支部理事及び支部監事は、支部会員のうちから選出する。その選出方法に関しては別に定める。

(2) 本支部会員である本部理事は、本部理事の任期中，支部理事を兼務することができる。

(3) 支部長は必要に応じて支部理事の中から副支部長を委嘱することができる。

支部内規変更案

（役員の任期）

第6条　支部長は、支部からの推薦に基づき、定款施行細則第28 条により、定款第20条に定める本部理事の中から本部理事会において選出する。

２ 支部理事及び支部監事の選出は次の各号による。

(1) 支部理事及び支部監事は、支部会員のうちから選出する。その選出方法に関しては別に定める。

(2) 本支部会員である本部理事は、本部理事の任期中，支部内規第11条*に関わらず、支部理事を兼務することができる。

(3) 支部長は必要に応じて支部理事の中から副支部長を委嘱することができる。

＊

第11条　役員の任期は２年とする。

2　会務の継続性など特に必要な場合は、任期を延長することができ、延長期間は１年単位で２年間までとする。

3　やむを得ない事情により任期途中で退任する役員については、その残任期を引き継ぐ後任者を選定することができる。この場合に限っては、第６条２項に関わらず、支部理事会において後任者を選出することができる。その場合は、ホームページで公示する。

4　その他は支部規程第１０条の定めるところによる。

4. 支部理事・監事の選出方法案

1．次期支部理事・監事候補者を自薦他薦で支部会員から募集
2．推薦に基づき、支部長・副支部長・幹事長が次期支部理事・監事候補者のリストを作成し、理事会で承認を得る。
3．そのリストを支部総会に提出して承認していただく。

資料5

サイエンスアゴラ出展応募と審査結果の報告　　　　　　　　　　　　2018 年 9 月 12 日
担当理事：堀

１．応募経緯

雪氷学会関東以西支部では、5 年前より、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）主催のサイエンスアゴラに出展（１日間、ブース展示形式）し、一般市民へ雪氷学の普及・啓蒙活動を実施してきた。今年も、以下の日程での開催が予定されている。

■サイエンスアゴラ 2018　開催概要

（１）日程： 2018 年 11 月 9 日（金)、10 日（土)、11 日（日）
10:00～16:00（初日は 13:00～）
※公募は 10 日（土)、11 日（日）のみです。

（２）主催： 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

（３）会場： 11 月 9 日（金）　日本科学未来館【開幕セレモニー、基調講演】
11 月 10 日（土） 11 日（日）テレコムセンタービル【ブース、セッション】

そこで今年度もサイエンスアゴラ 2018 への出展を計画するべく、6 月 1 日に公表された応募要領を確認したところ、これまで関東以西支部で実施してきたブース展示型の出展については、今年から２日間の出展が義務づけられたことが判明した。過去 5 回実施してきたブース展示形式での出展は、角氷を切削した雪の作成、ドライアイスを用いた人工雪の作成、密度計を用いた積雪密度測定、近赤外カメラを用いた雪質の変化の観察など、準備と当日作業にかなりの労力を伴う出展内容となっており、同じ内容で２日間連続して実施するには、支部理事を含めたボランティアの人員確保が困難になると予想されたため、１日間のみでの出展が可能なセッション展示形式（講演や＋簡単なデモ実演が可能）での出展計画（別紙の応募申請書参照）を立案し、６月末に応募した。

２．審査結果

応募と並行して、デモ実演で使用する近赤外カメラ、ガラスビーズ等の利用可能性を支部関係者に打診し、下準備を整えていたところ、8 月上旬に審査結果が通知され、残念ながら不採択の回答であった。以下は事務局からの回答文。

この度は「サイエンスアゴラ 2018」にご応募いただき、ありがとうございました。

推進委員会による厳正なる選考の結果、誠に残念ではございますが、今回は採択を見合わせていただくことになりました。今年度は応募数が多く、全ての企画を会場に配置することができないため、多数の企画をお断りせざるを得ない状況です。ご希望に添えず恐縮ですが、何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

なお、推進委員より応募企画に関するコメントがございますので、ご案内申し上げます。
■推進委員コメント
参加者への問いが「正解のある」問いばかりである印象を受けます。もっと一緒に考える問いが設定できるとよいと思います。企画タイトルは魅力的ですが、「出展の内容」との関係がわかりにくいと感じました。

多数のサイエンスイベントの中からサイエンスアゴラに応募いただきましたことに感謝するとともに、今後のより一層のご活躍をお祈り申し上げます。
次回のご応募もお待ちしております。

３．今後の対応

今回不採択となった要因は、応募企画の内容説明不足（聴衆に問いかける、問題を設定して一緒に考える、ような内容を強調すべきであったこと）もあるが、現地での会場数の制約から講演形式の採用数がブース展示に比べて少ないということもあり、これまでより競争が激しかった可能性が考えられる。来年再チャレンジする上では、ブース展示形式に戻して2日間で人数をかけて実施できるような下準備をしっかり行った上で応募すれば、採択の可能性は十分あると考えられる。一方で、セッション形式は、一度に多人数の聴衆にアピールできることから、出展内容をもっと意欲的な内容にして講演形式に再度応募する価値も捨てがたい。いずれにしても、サイエンスアゴラは来場者数3000人を超える大型のサイエンスイベントであり、来年度の募集要項を確認したうえで、上記のどちらかの対応にて出展を検討する価値があると考えられる。

以上。

別紙：応募申請書

サイエンスアゴラ 2018　応募申請書

事務局記入欄		

出展ID	企画番号

事務局記入欄

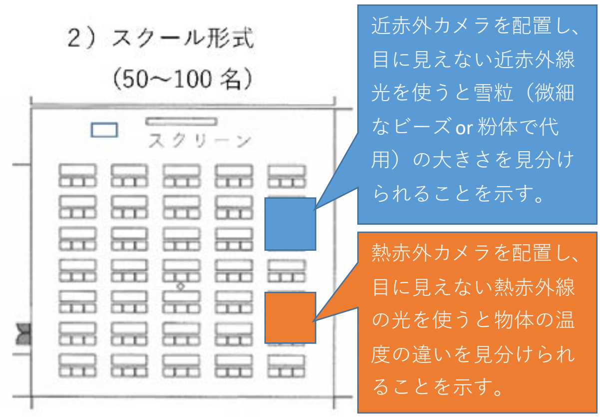
注意：複数の企画を応募する場合は、別途登録が必要です。

※は、必須項目です

応募団体情報	
1.出展タイトル　※ （全角25文字以内）	雪粒の大きさを宇宙から測る！雪氷圏の実態を解明へ！
2.出展者名　※ （全角25文字以内）	公益社団法人　日本雪氷学会　関東・中部・西日本支部
3.上記団体の組織区分　※	①大学・研究機関
4.上記団体のホームページURL※	http://www.seppyo.org/
5.責任者情報　※	所属：宇宙航空研究開発機構　　役職：主任研究開発員　　氏名：堀　雅裕
6.これまでのサイエンスアゴラへの出展回数※	4

企画情報	
7-1.形式　※	形式：②会議室：スクール形式（50-100名）　規模：①時間枠：1枠を希望（基本）
7-2.上記の「規模」で②または④⑤を選択した理由	雪氷圏の観測方法（今回は衛星を使ったリモートセンシングの原理と最新情報）について聴衆にじっくり理解してもらうことを狙い、ある程度まとまった人数単位で開催可能なスクール形式（一部実演も含む）を希望する
8.出展の内容 （全角300文字程度）※	地球温暖化が進行する中で、北極、南極などの雪氷圏が果たす役割、雪氷圏にいま起こっている変化（海氷、積雪、氷河の縮小、変質等）を現地観測や人工衛星観測の結果を紹介することで聴衆に知ってもらい、また、それらをどのようにして観測しているか、その原理をできるだけ平易に説明し理解してもらう（今回は人工衛星を使った光の遠隔探査について説明する予定）講演内容とする。また、講演後に、特殊なカメラ等を使用して、観測原理についてのデモンストレーションを行う。
9.主な登壇者情報　※	雪氷学会会員の研究者２名＋司会1名程度を予定
10.トピック　※	②地球
11.出展の主な対象　※	②中学生、高校生
12.出展を通して、参加者に提供できるもの（全角200文字程度）　※	本展示を通して、一般聴衆の皆さんに、今雪氷圏で起こっている変化の規模と速度について、現地の写真と最新の衛星観測画像を見て感じ取ってもらうとともに、地球の気候にとって雪氷圏が果たす役割、雪氷圏を観測するに必要な手法の原理に興味を持ってもらい、将来の研究者になる動機付けを持って帰ってもらいたい。
13.出展を通して、出展者自身が得たいもの（全角200文字程度）　※	学会以外の一般聴衆（特に中高生）に直接講演を行う機会は多くなく、本展示を通して、未研究者、非研究者の感じ方、モノの捉え方について、直接対話することによって得ることができる、と期待している。
14.参加者に投げかけたい問い（全角200文字程度）※	雪や氷は地球規模でどんな働きをしているか？、地球温暖化が進むとそれはどうなると考えられるか？、その変化をとらえるにはどのような方法で観測するのがよいのか？

15.イメージ図



16.実現性

想定参加人数／回	50-100名程度
所要時間／回（準備・撤収を含めない）	90分程度

17.出展当日のタイムテーブル

0:00-0:30　　講演・デモンストレーション準備
00:30-01:00　講演①（質疑応答込み）
01:00-01:30　講演②（質疑応答込み）
01:30-02:15　デモンストレーション（机を一部再配置）
02:15-02:30　撤収作業

18.出展当日の人員構成

司会：1名
講師：2名
デモンストレーション担当：2名
計）5名程度

19-1.該当事項 （火気は厳禁です）	☐ ①大量の水(1㍑以上)の使用　☐ ②大量の電気（0.5kWを超える）の使用　☐ ③生き物の持ち込み　☐ ④実費の徴収 ☐ ⑤飲食物の提供　☐ ⑥物販の実施　☐ ⑦音の発生　☐ ⑧光の発生　☐ ⑨においの発生 ☐ ⑩熱源の使用 ☐ ⑪油類、アルコール類の使用　☐ ⑫ガス類の使用　☐ ⑬薬品の使用　☐ ⑭液体窒素の使用　☐ ⑮その他
19-2.上記「該当事項」を選択した場合、具体的な内容を記入	
20.特記すべき事項	